

令和 2 年度大阪高校総合体育大会 サッカー（女子の部）

総評

優勝：大商学園高等学校 準優勝：大阪桐蔭高等学校
3 位：大阪学芸高等学校 4 位：追手門学院高等学校

令和 2 年度大阪高校総合体育大会サッカー（女子の部）は、令和 2 年 9 月 6 日（月）～10 月 17 日（日）に渡り、23 チーム（合同チーム 1 チームを含む）で熱戦が繰り広げられた。新型コロナウイルスの影響からインターハイの開催が無くなり、3 年生にとっては最後の試合となる。様々な思いが交錯する中、それぞれのチームが自分たちの特徴を活かしたゲーム展開を見せてくれた。特に今大会で印象に残った部分としては、守備力の向上と、勝利を勝ち得るためのハードワークする姿がとても印象的であった。各チームにおいての戦術行動としてはサッカー理解のもと、相手に応じて戦術を変えてゲームプランを構築するチームが多く見られた。

守備の部分ではブロックをしっかりと形成してボールを中心に縦ずれ、横ずれが連動して意図的に出来るチームが多くなっており、ボールを中心にゴールを守る意識が高まっている。

攻撃に関しては、ボールを奪い早い攻撃、カウンター攻撃を仕掛ける意図が多くあったが、ボールの明確な入れ方と質、人数を掛けながらコレクティブにゴールを目指す意識は高まっている。しかしながら、ボールを奪ってから止める、蹴る、観る、観ながらという技術的課題は更なる努力が必要であると感じた。

ベスト 4 に勝ち上がったチームにおいては相手を観ながら、テクニカルに・タフに・スピーディーに・コレクティブに戦えるチームであった。優勝した大商学園においては攻守にバランスがとれており、個々のタレント性と攻撃の多彩さ、相手を観ながら関わり続けるサッカーはとても素晴らしいものがあった。また、攻撃から守備への切り替えが早く、ボール奪取率が非常に高いのが印象的であった。惜しくも準優勝であった大阪桐蔭も、攻撃的な推進力のあるサッカーを展開してくれた。攻守ともにハードワーク出来るチームであった。第 3 位の大阪学芸も攻守にテクニカルな部分が印象深く、若いチームであり来年度以降も楽しみなチームである。第 4 位の追手門学院もサッカーの本質がはっきりしており、攻守に渡り組織的なサッカーを展開してくれた。

11 月 1 日から開催される全日本高校女子サッカー選手権関西大会においても大商学園、大阪桐蔭らしいサッカーで全日本高校女子サッカー選手権大会への切符を獲得してもらいたい。

最後になりますが、新型コロナウイルス感染症の感染防止に努めて、大会運営に御尽力いただきました役員の皆様をはじめ、御協力いただきました各学校関係者、補助員の生徒の皆様から御礼を申し上げ、大会の総評とさせていただきます。

大阪高体連サッカー専門部 技術部 井尻 真文
(星翔高等学校)